

大地震でまん延 コレラ、結核

ハイチの感染症防げ

2010年の大地震で壊滅的な被害を受け、感染症のまん延が深刻化しているカリブ海の島国ハイチに医療技術を伝えようと、神戸市を拠点に活動する非政府組織(NGO)「ユーチャーコード」が現地医師2人と通訳を日本に招き、11日、西宮市武庫川町の兵庫医科大病院で研修を始めた。(岩崎昂志)

兵庫医大で 神戸のNGO 現地医師に研修

ハイチ大地震の死者は

まつた。

30万人以上。復興の遅れ

研修を受けるグレー。

から今もテント暮らしの被災者が多い。衛生環境が悪化する一方、医療施設やスタッフは不足し、

結核やコレラなどの対策

に苦しんでいる。

フューチャーコード代

表で同病院呼吸器外科の大類隼人医師(31)は昨

年、ハイチを訪れた際、

現地医療に長年貢献して

きた日本人医師須藤昭子

さん(85)から助言を受

け、結核などの治療に当

たる人材の育成を計画。

日本に招く医師らの渡航

・滞在費に充てるためイ

ンターネットなどで寄付

を募ったところ、兵庫県

内を中心に全国約200

人から計207万円が集

り組む結核対策の検診事

業も体験する。

大類医師は「寄付とし

て集まつた思いを生かし、ハイチの将来に根付く支援にしたい」と力を込めた。

同病院呼吸器外科の設備を見学。ジャッセン医

師は「私たちの病院は地

震で倒壊し、今はプレハ

ブの施設で診療に当た

るが、患者は急増してい

る」と苦境を訴え、バス

カル医師は「日本に来ら

れる医師は限られるが、

学んだ技術をハイチで

広めたい」と決意を語った。



大類隼人医師(右端)の案内で病院内を見学するジャッセン医師(左から2人目)とバスカル医師(同3人目)=11日午前、兵庫医科大病院(撮影・辰巳直之)